

## 有機合成化学の若い力

### Synthetic Organic Chemistry: The Young Challengers

赤井 周司<sup>1</sup>, 国嶋 崇隆<sup>2,4</sup>, 宮岡 宏明<sup>3</sup> (<sup>1</sup> 阪大院薬, <sup>2</sup> 神戸学院大薬, <sup>3</sup> 東京薬大薬, <sup>4</sup> 科  
技団さきがけ研究21)

ポストゲノム時代に突入した今日、創薬科学のフロンティアにおいて先導的な役割を担う有機合成化学は、良き伝統を受け継ぐとともに、革新的な発想と展開を機軸とした更なる力量の向上が求められています。その中心的な牽引力となるのは成長過程にある若き研究者達です。本シンポジウムは、有機合成化学ならびに創薬化学において、自らの目でフラスコを観察し発想して新しいブレイクスルーの発見に挑戦している若き研究者に、成果やその研究過程等を発表して頂き、聴衆との闊達な討論で互いに切磋琢磨することを目的として、第 121 年会から始まりました。今年で 4 回目となり、有機化学系の若手研究者にとって重要な年会恒例の討論会となりつつあります。今回は、「パラジウム触媒を用いる創薬基盤化学合成法の開発」、ならびに「実践的な創薬化学研究」の 2 つのテーマに絞り、大学および製薬企業からの 8 名の新進気鋭の研究者に最新の成果と今後の展望について講演して頂きます。本シンポジウムが、大学院生や若手研究者をはじめ、幅広い世代の研究者への大きな刺激になることを期待します。